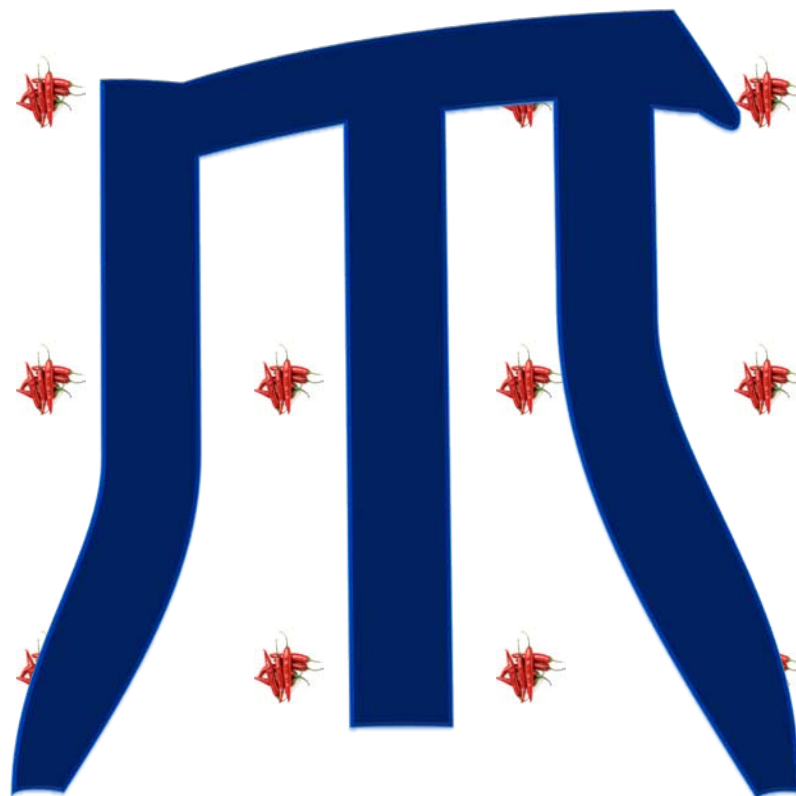




Bブロック作品と講評

WWW.COLUMNLAND.NET

ピカピカの爪

君の爪は短い

そう

大好きなバスケットをやるためだ

だから

僕と手をつないでも

チクチクしない

君は

「なんか甘の子っぽくないよね」

とか言うけど

でも

透明なマニキュアで

ピカピカしてる小さな爪は

僕の中じゃあ

世界一甘の子らしい

意外なお土産

外国人が日本に来た際、お土産として持ち帰るものは何だろうか。多くの日本人は、扇子や浴衣、風鈴、日本人形など日本文化的なものを想像するだろう。勿論、これらのものをお土産として持ち帰る人は多いが、意外なことに「爪切り」も密かにではあるが人気のあるお土産の一つである。

爪切りが人気な理由はいったい何であるか。その答えの一つとして爪切りの切れ味にある。昔から日本の刃物は切れ味がいいと海外で評判である。日本人は昔から小柄な体系の人が多いため、日本刀で人を切るには大きな力を必要とした。その力を少しでも減らすために刃物の切れ味をよくする技術が開発されたのだ。その技術が現在に至るまで残っているため、日本の刃物は海外のものと比べて切れ味がよいのである。

また、爪切りの形状にも人気の秘密がある。爪切りと言えば多くの人は、てこの原理を利用し、弧の形をした2本の刃で爪を挟んで切る形状のものを思い浮かべるであろう。しかし、欧米の中にはこの形状ではないニッパー型の爪切りが主流な国がある。ニッパー型の爪切りは巻き爪を切るには便利であるがその反面、爪をきれいに切ることができなかったり、ケガをする危険性があつたりする。そのため日本の爪切りをお土産に持って帰る人がいるのである。

他にも、爪切りの利便性にも理由があるだろう。日本の爪切りには、切り終わったあとに爪を研ぐやすりがついていたり、切った爪が飛ばないようにカバーがついていたりするものがある。この細やかな気配りが海外の人々に人気なのである。

このように私たちには何気ない当たり前なことでも、外国人から見ると真新しかったり、奇異に見えたりすることがある。外国人を観察することにより、普段は主観的にしか見えなかったものが客観的に見えるようになり、今までになかった新しい考えが生まれるようになるのではないのだろうか。

上官に言わせると拷問の際に剥がされた爪は、通貨としての価値があるそうだ

曰く、その情報の重要性

すなわち、どれだけ我々が熱心に働いているか

敵国は「非人道的だ」と非難してくる

しかし、この戦争は総力戦である

悠長なことを言っている暇はない

もともと、悪になど人間としての振る舞いが許されるはずもないのだから

だが

しかし

けれども

いったい何が間違いだっただろう

我々は勝つことができなかった

ただそれだけの差で私の人生は変わった

いや、終わってしまったというべきか

私たちのしてきたことが咎められ、隊全員が闇に葬られることとなった

それについてはあまり多くを語るまい

だが、今更になって考えた

果たして本当にあの爪に価値があったのだろうか

君のために僕ができること

君をそつと抱きしめてあげよう

寂しがりやな君が孤独にならないように

君の髪をそつと撫でてあげよう

心配性な君が安心できるように

君の手をそつと握ってあげよう

その伸びた爪が君自身を傷つけないように

黒い爪

「おばあちゃんの爪は黒い。」

それに気づいたのは小二の夏のことだっただろうか。

なぜなのか気になって母親に聞いてみると、「そうなの？」とおどけた表情で逆に質問され、父親に聞いても同じような顔で「知らあん」と言われた。好奇心の塊となった僕は、気づいたらその問いをおばあちゃんにぶつけていた。

「なんでおばあちゃんの爪は黒いの？」

いきなりの質問にも驚かず、得意の毛糸編みをしながら軽々と答えた。

「人間はねえ、年を取ると白髪が増えるでしょ。その代わりに爪が黒くなるのよ。」

髪の毛と爪なんて、自分の体の一部だつてことと、テレビで見た「どちらも皮ふが変化した物」だつてことぐらいしか関係ないと思つてた。僕にとつてはすごい発見だ。やつぱりおばあちゃんは物知りだ。なんでも知つてる。だけどこちよつと気になる。

「じゃあ長生きすればもつと黒くなるの？」

編み物の手が止まる。どこか空の向こうを見ているような表情で、おばあちゃんはただ、

「そうねえ。」と繰り返すだけだった。黒い爪が蛍光灯の光に照らされ、妙に光つて見えた。

小六の冬のある日、夜中に電話が鳴り響いた。「何よこんな時間に」とぶつくさ言いつつ、母親が電話に出る。どうせセールスだろうと思ひながら聞いていると、応答する母親の声がかんたん硬く、重くなつていく。いや、声のトーンは変わらなかったけど、僕にはわかった。

「どうしてこんなになるまで放つておいたんだー!!」

おばあちゃん家の近くにある病院。医者が怒鳴りつける。思つた以上に深刻らしい。

「もともと心臓が弱かつたらしい」「手術が必要」「寝たきりになつてしまふ」

僕には起こつてることがとても信じられなくて、涙すら出てこなかった。

「爪の下に悪性の腫瘍が――」

僕はハツとした。あまり良く覚えていないけれど、確かに尋ねたあの質問。

――なんでおばあちゃんの爪は黒いの？

思い出した瞬間何が何だか訳が分からなくなつて、目の前の世界が黒一色に蝕まれていった。

「お孫さんが来られましたよ」

看護師さんの声を聞いて、ニコニコしながらこっちの方を向いている。ほぼ寝たきりとは言え、今日も元気そうにしているようだ。晴れて故郷の大学に進学した僕は、こうして週に一度お見舞いに行つてゐる。会話はおばあちゃんのペースで、ゆっくり進む。

「大学は楽しいかい？」「その質問は先週もしたよー」「あれ？そうだった？」

ふと目を移したベッドの脇に、小さな僕の頭を撫でている、おばあちゃんの写真があつた。そこには、一点の影――黒い爪――が、予言者のように、ただ不気味に鎮座していた。

「爪」誕生物語

今から遠い昔、世界各地で人間が文字を使い始めたころ、様々な文字が誕生しました。もちろん中国も例外ではなく、数多くの漢字が誕生しました。

ある日のこと、文字の神様が漢字の神様に「ツメ」という漢字を今日中に作れ、と命令しました。漢字の神様は、漢字づくりのベテランなので快く承諾しました。

しかし、実をいうと漢字の神様はツメというものを見たことがありませんでした。そこでツメの神様に相談しようとしたのですが、ツメの神様は会議のため出張していて不在でした。ツメについて全く無知な状態で漢字を作るのはまずい、と考えた漢字の神様は必死になって情報収集をして、指の先についているものだということがわかりました。

そこで、漢字の神様が人間界をのぞいたところ、一人の人間を見つけました。その人間は派手なけんかでもしたのでしょうか、ツメが縦に割れていました。漢字の神様はそのツメを見て、ほかの

割れていないツメを見ないまま、これがツメなのか、と勘違いしてしまいました。その後、漢字の神様は草案を文字の神様に提出し、「ツメ」という漢字は「爪」だと定められました。

後日爪の神様はそのことを知り、激怒しました。なぜなら漢字の神様が漢字を作っていたときの会議で「ツメ」という漢字を「爪」と独自に決定していたからです。爪の神様は文字の神様に「爪」にするよう懇願しましたが、その願いはかないませんでした。

こうして「ツメ」という漢字は割れていない「爪」ではなく、割れている方の「爪」が使われるようになりました。

おしまい

指の背を任された爪

爪切りの背を任された爪やすり

なんだか仲間意識が出てきて、

すりすりしちやいます。

彼女はどれだけ彼を好きだったのか

「私からのお願い。彼はね、私の特別な人でもあるの。だから、大切にしてください。」
そう言って彼女は消えた。

私が、明日、彼に告白することを決めて、日記にその決意を書き込むと、いきなり女の人が目の前に現れた。その人は私に指をさして、

「彼には、大きな心の傷があるのよ。恋の爪あとが、ね。」
と、言ってきた。よくわからない展開。

「とりあえず、その指をこつちに向けないで、爪が鼻にあたってるし。」
指を撥ね、私は尋ねた。

「どういふことなの、なんなの、彼がどうしたっていうの。」
聞いてみると何とも変な話であった。

彼女は女神候補生だという。なんでも一年前、半年間の人間界研修に来ていたらしい。その際、彼女はあいつに出会い、恋をした。という。

「あなたにも会ってるのよ、あたし。でも、天界に帰るときに、すべての人の記憶を操作させてもらったの。彼以外のね。なんか、悪いことをしてしまったと思っただけだね。でも、好きだった。だから、忘れてほしくなかったの。」

全体的に、うそをついているようにも見えず、信じることにした。けど、なぜ彼に会わないのかと聞いてみると、

「会いたいよ、そりゃ。でも、禁止されたし、また会ったら、今度こそ記憶を消さないといけない。だからね、あなたみたいな優しい人に彼の恋の爪あとを埋めてほしい。だからここに来たの。どれだけ大変な思いをしても、彼を救ってくれるのか、聞きにきたの。」

顔が赤くなっていくのがわかる。嬉しい、でも少し考えると、どれほど彼女がわがままことをしているかわかる。

「でもさ、ちょっとだけ私の愚痴に付き合ってくれないかな。あなたはね、その優しさで、私

が人間界に暮らしていた頃、友達でいてくれて、ね。嬉しかったの。」
こうして、彼女の愚痴にしばらく付き合っていた。女神じやなきやよかったとか、彼ともつと一緒にいたかったとか。妙な既視感を覚えつつ、聞いていた。

最後に言った彼女の言葉

「私は恋の女神、の候補生。これから、多くの恋を成就させなきゃいけない。でもね、この恋はとても別格。私からのお願い彼はね、私の特別な人でもあるの。だから、大切にしてください。」

私は思った。彼の爪あとを癒すだけの想いがあるのかと。彼の恋人になる覚悟はあるのかと。
ところで、彼女はやはりつらいのだろうか。この記憶は消えるのだろうか。そう思っているうちに眠っていた。明日は彼に告白しよう。たぶん、うまくいく気がする。

ちよつぱり大人の

あなたの隣を並んで歩くため

わたしはいつも

背伸びをする

そんな私を見て

“君が大人になるまで待つてるよ”

ってあなたは優しく言うけれど

そのあなたの余裕が

わたしを余計に

不安にさせるの

どんなに頑張っても

この差が縮まることはないって

本当はわかつてる

それでもやつぱり

わたしは今日も

爪先立ちで

あなたの背中に腕を回す

たまに爪がうずく。

むずむずして、自分ではどうしようもなくなるときがある。こつして敵のいない場所でのうのうと暮らしている。自分が何者であるか分からなくなる。もしかして、それをわすれないでいるために爪が知らせているのか。こんなところで呑気に昼寝ばかりしている場合ではないぞ、と。しかしどうするわけにもいかない。こつでの暮らしはまるでぬるま湯のようではいけない。そして爪は伸びるばかり。本来の方法ではないと分かっているけど、手近なところで磨くしかないのだ。どうしようもないから爪が敵を欲してうずくまで手の内にしまっておくことにする。

飼猫は傷つく柱の気持ちにはなれない

始まりの爪先立ち

「んんー……」

本棚の前、床に置いた台に登って爪先立ちをすること数秒。

中指の爪がカリカリと背表紙の下の所を引っ掻くけど、これじゃ取れない。

よつするに、図書館にある大きな本棚の最上段にある本は、私みたくんまい人には取れないというお話だ。

だが私は諦めない。多少バランスを犠牲にしてビヨーン飛び跳ねてみても……やっぱり取れない。

背表紙をいくらか引っ掻いたって、つかめないとダメなんだ。

「んー……んいー！」

力を込めて、今までよりも大きくジャンプー！

今度は真ん中からへんまで手は届いたけど、まだ掴めない。

しかも、更に悪いことに、着地した瞬間、足がズしてバランスが崩れた。

「きゃーっ！」

台から足を踏み外しちゃって、後ろ向きに倒れる。やばっ、頭打つー！

「おっ！」

「……………えっ！」

頭を襲った衝撃はいつまで経っても来ず、むしろ、体全体がやさしく受け止められている。

「言っか、気付けば、倒れかけたところを男の子に支えられていた。

「大丈夫？ 橋本さん」

「えっ、あっ、あれっ」

私の両肩に手を添えて、私の背中を胸で受け止めていた男の子。

にっこりと微笑みかけて来たかと思えば、私の返事を待たず、さっき私が登っていた台に登って

「ゆっ！」

手も足も出ないほど難攻不落だったその本を、いとも容易く引き抜いて、うんと一回調子

「はい。取りたかった本、」しだよね。」

と、そいつを私に手渡してきた。

一方、私は言ってる、あまりの急展開に頭が追いついていなかった。

あなたのお名前が、とが聞くとしかけて、その人がクラスメイトの小早川君だと今更気付いて

本を受け取るべきに取り損ねて落ちてしうになって、慌てて持ち直したりして、

……………して、そっぴやないー！

「あ、ありがとう、小早川君。お陰で助かったわ」

お礼が一番、その他は二番。三時のおやつはその後で良い。そんなのは子供でも知っている。

と言いつつ、べこりと小早川君に頭を下げた。

「うん、どういたしまして。橋本さんも、爪先立ちでジャンプとか、あんまりお勉強しちゃダメだよ。」

クスリと笑って、小早川君は私の頭を軽くくしゃっと一撫で。

そのまま、笑顔を私に向けた後、いつの間にか調達していたのか、本を片手に歩いて行ってしまった。

「……………」

ぽかんとしたまま小早川君を見送る。

……………今、頭撫でられたよね。女の子の髪は冷だっていつのに、小早川君、あつちの触っていたよね。

でも……………不思議と嫌な感じはしなかった。むしろ、触られたところが温かいくらい。

そっぴやって、小早川君に撫でられたところを撫で返していたら、ふと小早川君の笑顔が蘇ってきて、

「っ」

とぐん、と心臓が一跳ね。そのまま、きゅーと胸の辺りが苦しくなった。

……………えっ、ちよっつ、何、この反応？ しかも、顔、なんか熱い。

もしかして、私、小早川君に……………

郷愁

子供の頃、母がよく言っていた。

「夜に爪切ったら親の死に目に会えなくなるから、また明日にしなさい。」

幼心にすらばかしいと思っていたそれを、

大人になった今信じている訳も無い。

けれど、何故だろう。

最近、爪を切る度に母の姿を思い出すのだ。

・・・信じるもんか。

コンテスト結果

[Aの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数	順位	特別賞
		まじょコメント		
A01	爪を切るということ	3 pt	7 位	2 sp
		爪という小さなものと、社会という大きなもの。 全然違うスケールのを、文章の力でひょいとリンクさせてみる。そんな予想外の試みでおもしろさと深さを醸し出した今週の表紙でした。 特別賞：心のノートで賞（「じーん」ときたから） 特別賞（句読点の位置が個性的） イチオシフレーズ：「爪は社会に似ている」「それは、社会ではいくら古くたって、頑張り次第でいくらでも生き残れるってこと。」		
A02	簡単！爪の垢の煎じ方	3 pt	7 位	2 sp
		ネタ入ります。 おおまじめに煎じてみよう、そうしよう。 理科レポート風のノリで軽やかに形づくられていました。ことわざオチのおまけ付き。 あなた好みの製法をアレンジしてどうぞ。 特別賞：ユーモア欠乏賞（ボケが少ないから） 面白い賞（流れがいい）		
A03	グリーンネイル	2 pt	9 位	1 sp
		グリーンネイル。初耳の読者さんも多かったのでは？豆知識ゲットかたがた付け爪するみんな、健康に気をつけてね！のメッセージがしっかり伝わってきます。これって、お化粧品とかコンタクトとか、飾り立てるのはほどほどにね、と一般的なメッセージにも転化できそう。 特別賞：華美はカビるで賞（本当にある病気なんだ。）		
A04	付け爪	2 pt	9 位	1 sp
		このせつない思い。 たぶん実らない。じぶんでも分かってる。 でも好きで好きで、どうしても何か破壊的なことしたくなって・・・ 付け爪ひとつで、翳りのある乙女心をしっかりとらえていただきました。 特別賞：ずるいで賞		
A05	ことわざや	21 pt	1 位	1 sp
		さすが幻の一位作品（と当該セッションの覇者さんが認めた）「天戟文庫」の作者さん。呉越同舟スワンボートやら歩犬スティックやら、いろんなアイテムの凝り方がまさに職人芸の楽しさで、最多イチオシフレーズ・タイです。 で、えーとラストはどうなったのでしょうか。天才と馬鹿は紙一重ってことで馬鹿になってしまった!? カワイソス。 何はともあれ、ご自身の最短作品で、晴れて壇上奪		

		取、おめでとう!!! 特別賞：失速賞（オチが惜しい） イチオシフリーズ：「＃％\$！……」 「能ある鷹の爪の垢」 「馬鹿につける薬」			
A06	爪切り	<table> <tr> <td>8 pt</td><td>4 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> ん、何だろう？ かしこいTAさんが教えてくれました。足の爪じゃね？ なるほどねー。おなかにじゃまされて見えなくなっちゃったってことか、そっかそっか。気づけば、とてもユーモラスな光景が広がります。 「あなた、ちょっとは痩せなさいよ！ そのお腹。」	8 pt	4 位	0 sp
8 pt	4 位	0 sp			
A07	女王様と奴隷部下	<table> <tr> <td>0 pt</td><td>11 位</td><td>4 sp</td></tr> </table> 女王様のお姿や性格がありありと見えるような秀逸な描写力でした。 いわゆるツ〇デレ女王様。まあ、美人は何をしてもオッケーってことで、部下さんもうれしそうだし、このおつきあいのやりかたで良いのでは？ おしあわせに☆ 何だかやっちゃったミスタイプが注目集めて、最多特別賞＆最多イチオシフリーズ・タイをゲットです。話題になれば勝ちだね。 特別賞：釘宮賞（藩内にツンデレ好きがいてめっちゃ熱弁してたから。あとこの前くぎゅ3の誕生日だったね）とkうべつ賞（kうちを開いたところナイスタイプ!!）誤字で賞（誤字の仕方がすさまじかった）電撃ゲーム小説大賞（外見パーフェクト、性格悪し、ツンデレ×ヘタレ、なのにモデル、の主人公の昨今のノベル感に感動した） イチオシフリーズ：「kうち」×3	0 pt	11 位	4 sp
0 pt	11 位	4 sp			
A08	つめ	<table> <tr> <td>8 pt</td><td>4 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> カリカリの彼。それを見つめる彼女（たぶん）の視線。 パラレル進行で見せることで、教室ドラマが立体的に見えてきます。 ここまで鈍感な彼だと、ゴールインまでは、まだまだ遠そうですけれど。 特別賞：爪ってタンパク質で賞（爪の構成成分はタンパク質でカルシウムは少ししか入ってない） イチオシフリーズ：「カリカリカリ」	8 pt	4 位	1 sp
8 pt	4 位	1 sp			
A09	爪痕	<table> <tr> <td>14 pt</td><td>3 位</td><td>0 sp</td></tr> </table> 猫くんの動作をこまやかに描写したところが良さと読みました。 ほんとに人の言葉が理解できる猫のようで、そこがかわいい。鳴き声ひとつ立てないで表情だけだから、よけいにいとおしく感じます。いきなり人語なんか喋られたら興ざめでしょう。 「だって家族なんだから！」、少女のセリフがせつない響きを残してブロンズ・メダルの共感をいただきました。おめでとう!!	14 pt	3 位	0 sp
14 pt	3 位	0 sp			
A10	無題（辛いの手）	<table> <tr> <td>8 pt</td><td>4 位</td><td>1 sp</td></tr> </table> ペペロンチーノでしょうか。 1コだけでもバクダンですよね、あいつは。 日常のあるある体験、実感がひりひり伝わってきます	8 pt	4 位	1 sp
8 pt	4 位	1 sp			

		す。 特別賞：辛いで賞（からくてつらいから） イチオシフレーズ：「ツメが甘かった」
A11	彼女が淹れお わったコーヒー を……	0 pt 11 位 2 sp 彼と彼女と彼女の彼。いびつな人間関係が、巧みな心 情描写であぶり出されてきます。 このあとを読んでみたい！がTAさんたちからのリクエ ストでしたけど。 それにしても、「帰ったら殺すわよ。」って、みなさ ま、そんなにも言われてみたいフレーズなのですね。 最多イチオシフレーズ・タイです。めもめも>婦女子 のかたがた。 特別賞：タイトルが長いで賞、タイトル長いで賞 イチオシフレーズ：「帰ったら殺すわよ。」×3
A12	矛か盾か	21 pt 1 位 0 sp ラストは三題噺仕立てで。 身近な話題からさくっと入って、ラストを重たく。ひ とつひとつの問いが、さくりさくりと刺さってきます。 「僕はわからない」のリフレインが、作者さんの飾ら ない率直さを伝えて、より深い思索へと誘ってくれる 今週の裏表紙でした。 みんなの琴線に大ヒットでゴールド・メダルです、お めでとう!!! イチオシフレーズ：「矛なのか、盾なのか。」

[Bの部]

コラム番号	コラムタイトル	点数 まじょコメント	順位	特別賞
B01	ピカピカの爪	3 pt 9 位 4 sp 初恋気分？ いやいや「手をつないでもチクチクしない」 とあるから、この僕はn度目（ $n > 1$ ）と推定されま す。ほら、彼女だってバスケしながらマニキュアちゃん と塗ってるし、きっと大学生……ってことは実話！ 描写のあいまから、そうやって人間模様がしっかり見え ます。桜色のきれいなピカピカが輝く、しあわせ満開の 今週の表紙、みんなに憧れてもらって（？）最多特別賞 でした。 特別賞：ピカピカで賞（キクチのせいです） リア充は爆 発しろ賞（リア充ってやっぱり憧れる） リア充爆発しろ 賞（1 4 9 1 1 共同受賞） オカマ賞（本当に女なので しょうか。） イチオシフレーズ：「キクチク」		
B02	意外なお土産	13 pt 2 位 1 sp よく調査して、しっかり論理構成されている典型的正統 派です。 お土産が爪切り、ほうそれは意外だ、としっかり読者を 引き込んで、そのわけは……と定石通りの展開で、とん とんとたたみかけ、ラストを自分の考えでふわっと ふくらませて着地。 グッジョブでした。きっちり評価してもらえてシル バー・メダル、おめでとう!! がんばれ正統派！（→全員 向け） 特別賞：正統派！賞（正統派はみんなが好き）		
		0 pt 11 位 2 sp		

B03	無題（拷問）	ナチスを想起しました。いや、あらゆる戦争に憑きもののまがまがしさか。 悲劇をセンチメンタルに描くのではなく、まさに軍人らしくぱっきりとドライに描き、要点を衝いた言葉選びが、強い印象を刻みます。 言葉のつよさは今週のピカイチ。 特別賞：爪が甘いで賞（爪が甘かったから） ノーベル平和賞（戦争の悲惨さを後世に伝えているから）
B04	君のために僕ができること	3 pt 9 位 0 sp どんな場面なのでしょう。読み手それぞれに想像できそう。 なぜか植物人間状態の君、を想像してしまいました。スリーピング・ビューティ。いや、それではテンプレートすぎる。じゃあ、屋根裏部屋にひっそりと忘れられたフランス人形！ 特別賞：リア充爆発しろ賞（1 4 9 1 1 共同受賞）
B05	黒い爪	11 pt 4 位 0 sp ふだんは気づかないように、見ないふりをしているけれど、でも確実に日常のかたわらに存在している死の影。それを黒い爪という象徴に託しての骨太なストーリーテリング、あざやかでした。
B06	「爪」誕生物語	8 pt 5 位 1 sp よく探したなあ。このヘンな字。 言われてみれば、たしかに真ん中の割れたツメですね。象形文字のおもしろさと戯れて、楽しい誕生秘話でした。 特別賞：よくでっちあげたで賞（世界観が独特） イチオシフレーズ：「爪－1」（→字が見つからない）
B07	無題（すりすり）	7 pt 6 位 1 sp 「すりすり」に大共感！ 「任された」という表現も、とても頼もしく響いてこちよい。 とても小さな光景をしっかりとつかまえた鋭い観察眼に拍手！ すりすりすりすり、イチオシフレーズ大賞です、おめでとう!! 特別賞：読みやすいで賞（4 位。読みやすい。スッキリしている。） イチオシフレーズ：「すりすりしちゃいます。」×7
B08	彼女はどれだけ彼を好きだったのか	0 pt 11 位 0 sp どれだけ？なんて分かるかあ！ なかなかにせつないシチュエーションですね、恋の女神候補生さん。さらりと新恋人に引き継いじゃうなんて、さすが女神候補生です。 でもって彼の主体性がなさすぎ、なんですけど、そこはお約束か。
B09	無題（ちょっと大人の）	5 pt 7 位 4 sp せいっぱいのけなげさ。乙女心のいじらしいカタチ。ぎゅっと抱きしめたくなるいっしょうけんめいさに満ちた仕上がりでした。 そのリアリティがみんなのツボ、光源氏やらロリコンやらと転がしてもらえて最多特別賞です。おめでとう！ 特別賞：それはアカンで賞（年の差いくつだ！）光源氏賞（光源氏が書いた？）字がかわいい賞（字がいい！）ロリコン賞（ロリコンやから）リア充爆発しろ賞（1 4 9 1 1 共同受賞）

		イチオシフレーズ：「君が大人になるまで待ってるよ」 「爪先立ち」
B10	飼い猫は傷つく 柱の気持ちには なれない	13 pt2 位0 sp おお、これはうまい！猫のなかの野性を、爪という象徴でみごとにつかまえました。 お昼寝のところで猫だと気づきます。でも気づいてなお楽しい心情描写でラストまで持って行かれます。 タイトルも洒脱に決まって、グレート！ みんな猫好きだなあのシルバー・メダルです、おめでとう!! 飼えるといいね、作者さん。
B11	始まりの爪先立ち	4 pt8 位2 sp ラブコメのはじまりはじまりい。 舞台は学園モノお約束の図書館。 「くしゃっと一撫で」恋の到来。 うきうきとかるやかな展開です。 それにしても、こんなに女性馴れしている小早川くん、いったいナニモノ？ 特別賞：作者の顔が見たいで賞（作者の顔が気になる。ホントに気になる）らぶこめ☆賞（他にない感じだったので。）リア充爆発しろ賞（1 4 9 1 1 共同受賞） イチオシフレーズ：「お礼が一番、その他は二番、三時のおやつはその後で良い」「ちんまい人」
B12	郷愁	23 pt1 位0 sp 夜に爪切ったら……おんなじこと、言われた人も多いのでは？ 小さく心のなかで反論しつつ、でもそうやって思い出すことが、すなわち「郷愁」。 なんかもう、ほんとうに自然になだらかに腑に落ちるつぶやきでした。タイトルでまとめた工夫もしっくりなじんだ今週の読み納め。みんなの郷愁をさりげなく誘って圧勝のゴールド・メダルです。おめでとう!!! イチオシフレーズ：「・・・信じるもんか。」「郷愁」